

## 令和2年度 田川市立病院評価委員会 議事録

日時 令和2年11月10日（火）14時00分～15時50分

場所 田川市立病院 講堂

### 1 出席者

#### (1) 委員

学識経験者	柴田 洋三郎	福岡県立大学 学長
〃	荒木 久昭	田川医師会 会長
〃	是永 大輔	中津市立中津市民病院 院長
〃	尾形 由起子	福岡県立大学看護学部 教授
〃	佐藤 元治	公認会計士
市民委員	身吉 正幸	元田川地区消防署長

#### (2) 事務局

鴻江病院事業管理者、松隈病院長、小早川副院長、高橋副院長、肥川病院局長、吉田事務局長、石川看護部長、西原薬剤科長、財部医療連携室長、本永管財課長、有田医事課長補佐、加藤経営企画課長補佐、茅野経営企画係長、経営企画課担当

### 2 委員長、副委員長の選出

委員の互選により、委員長に柴田委員、副委員長に荒木委員を選出

### 3 議事

#### (1) 令和元年度の決算報告及び業務実績に関する評価について

##### ① 元年度決算報告

(事務局より決算概要を説明)

元年度は診療単価の増加により収益はやや増加し、報償費や委託料、減価償却費の減少により費用が減少したため、経常収支 8,543 千円、病院事業収支 173,637 千円の黒字決算となった。しかしながら、患者減少による収益の減少が続く中、消費税増税や最低賃金の上昇に伴う委託費の増加など費用が増加し、依然として厳しい状況である。

(質問・意見等)

・「その他の特別利益」の内容は何か。今後も続くものか。

→ 平成26年度の会計基準見直しに伴う帳簿上の処理（長期前受金の計上）であり、現金等の収入ではない。令和3年度以降は終了となる。

##### ② 元年度業務実績に関する評価

(第3期中期事業計画に基づく令和元年度の業務実績について、市立病院の自己評価を踏まえて、評価委員会として評価を実施)

○小項目評価について

・断らない医療の実現 【評価変更：2→3】

医師の少ない地方病院では、一病院で全ての症例に対応することは難しく、地域全体で連携し対応する必要がある。応需率向上に向けて可能な限り取り組んでいることから、評価を「3」とする。

・救急医療の充実 【評価変更：2→3】

田川地域の救急患者のうち市立病院で 1/3 程度を対応しており、医師不足のなか十分な役割を果たしていることから、評価を「3」とする。

・循環器内科の再建 【評価変更：1→2】

大学医局の医師が少ないため医師の確保ができていないが、大学訪問や人材派遣業者等からの情報収集など可能な限り取り組んでいることから、評価を「2」とする。

・小児医療 【評価変更：3→4】

田川地域の小児科医が少ないなかで、市立病院の夜間の小児救急受入れは地域に対し大きく貢献していることから、評価を「4」とする。

・感染症医療 【評価変更：3→4】

第二種感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症への対応に向けた体制整備やスキルアップなど、十分な準備が現在の対応に繋がっていることから、評価を「4」とする。

・目標管理の拡大・拡充 【評価変更：4→3】

医業収支比率、経常収支比率は改善しているが、依然、医業収支は△2 億円以上の赤字であることから、評価を「3」とする。

○大項目評価について

(小項目評価の結果から大項目評価の基となる点数を算出、判断基準に沿って評価)

大項目	評価		点数
1 田川市立病院の果たすべき役割	B	概ね計画どおりに進んでいる	3.2
2 三方よしの病院運営	B	概ね計画どおりに進んでいる	2.9
3 再編・ネットワーク化	B	概ね計画どおりに進んでいる	3.0

○全体評価について

大項目評価の結果および特に着目すべき成果（9 項目）を考慮し、全体評価を「概ね計画どおりに進んでいる」と評価する。

なお、特に着目すべき成果に、新型コロナウイルス感染症への取組が高く評価できることから追加する。

(主な質問・意見等)

- ・緩和ケア病棟を設置予定とのことだが、入院と在宅をうまく循環させていただきたい。また、レスパイト入院の体制が整えば、住民の安心感に繋がると思う。
- ・医師の働き方改革で「時間外勤務月 100 時間未満」に焦点をあてているが、医師の少ない地方病院は「有給 5 日/年」をいかに取得できる体制を整えるかが重要である。
- ・第 3 期中期事業計画では、令和 4 年度の医業収支が△158 百万円となっており、入院収益より外来収益の増加率が高いが、外来診療を重視するということか。
  - 重視は入院診療である。地方病院として、遠方に行けない患者の入院診療や特に救急医療、在宅医療と密接に連携する入院診療に力を入れる必要があると考える。なお、当院で診る必要のない外来診療は今後整理していく予定である。
- ・がん等で自己完結率が高くないことをどのように考えているか。
  - 自己完結率を高めるためには専門医の充実が必要である。全ての領域で自己完結率を上げることは難しいため、地域の医療需要に応じて、可能な領域から供給を図る必要がある。当院の場合は循環器内科と考えている。

## (2) 令和 2 年度経営状況について

(事務局より概要を説明)

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 2 年度は外来、入院ともに 4・5 月の患者数、稼働額が大きく減少した。6 月以降回復傾向にあるが、8 月までの実績に基づく令和 2 年度決算の試算では、△557 百万円の赤字が見込まれている。早い段階で昨年度程度までの回復を図り、自立した経営が可能となるよう注力する必要がある。

(質問・意見等)

特になし

## (3) その他

(委員からの意見等)

- ・ 診療報酬加算の取り漏れ防止、病名漏れ等による査定率の改善、診療材料費の節減など、小さなことを確実に行うことが経営改善に繋がる。また、目安箱を設置し、職員の意見を拾い上げることもよいと考える。
- ・ 医師の増加が入院収益の増加に繋がっていないように感じる。医師確保の難しさに加え、働き方改革への対応等を考えると、効率的な医師の活用法を検討する必要がある。
- ・ 給与費対医業収益比が高いため、外部委託への転換等を検討したほうがよい。